

# 茨城県の自然災害年表

延暦十八年九月	七九九	太平洋岸に津波
弘仁九年九月七日	八一八	関東諸国地震 M七・五以上。相模原、武蔵、下総、常陸、上野、下野などで被害。圧死者多数。
貞観十一年五月二十六日	八六九	貞観三陸沿岸地震 M八・三
元慶二年九月二十九日	八七八	関東諸国大地震 M七・四
応永二十七年九月	一四二〇	県北に津波
慶長十六年十月二十八日	一六一一	慶長の三陸沖地震 M八・一
延宝五年十月九日	一六七七	磐城・常陸・安房・上総・下総地震 M八・〇 磐城から房総にかけて津波。水戸領内で溺死者三十六名、家屋全壊百八十九棟。
天和三年五月二十四日	一六八三	日光で地震、M六・五く七・〇。石垣・灯籠のほとんどが倒れる。
元禄十六年十一月二十三日	一七〇三	元禄地震 M七・九八・二 江戸・相模・武蔵・上総・安房で震度大。特に、小田原は城下全滅。
宝永四年十月四日	一七〇七	宝永地震 M八・六 わが国最大級の地震のひとつ。全体で少なくとも死者二万、潰家六万、流出家二万。四十九日後に富士山噴火。
享保八年八月	一七二三	利根川洪水
享保十三年	一七二八	小貝川洪水
享保十九年	一七三四	小貝川洪水
寛保二年八月	一七四二	関東諸河川で洪水
宝暦五年	一七五五	利根川洪水
宝暦七年五月	一七五七	小貝川洪水
宝暦十三年四月	一七六三	小貝川洪水
天明三年四月く七月	一七八三	浅間山噴火、茨城県西南部に降灰
天明六年七月	一七八六	関東・東北で洪水
寛政六年十一月三日	一七九四	江戸で地震、鳥取藩上屋敷・幕府書物方で被害大。水戸でも有感。
享和二年	一八〇二	関東諸河川で洪水
文化六年	一八〇九	茨城南西部で洪水
文化十四年夏	一八一七	大早魃
文政七年	一八二四	茨城南西部で洪水
文政十一年	一八二八	茨城南西部で洪水
文政十二年	一八二九	茨城南西部で洪水
天保四年	一八三三	関東・東北で洪水
天保八年	一八三七	茨城南西部で洪水
天保十三年	一八四二	小貝川洪水
弘化三年	一八四六	茨城南西部で洪水
安政二年六月五日	一八五五	茨城で洪水
安政二年十月二日	一八五五	安政江戸地震 M七・〇く七・一 家屋全壊二十七棟。
安政五年六月十五日	一八五八	茨城で洪水
明治二十八年一月十八日	一八九五	茨城県南部地震 M七・二 鹿島・水戸・那珂・新治、行方などで被害大、圧死者六名、負傷者三十四名、家屋全壊三十七棟。
明治二十九年六月十五日	一八九六	明治三陸沖地震 M八・二 被害はなかったものの津波が北海道から札幌半島にいたる海岸線に襲来し、死者総数二万一千九百五十九名、家屋流失全半壊八く九千棟、船の被害約七千隻。波高は吉浜二四・四m、綾里三八・二m、田老二四・六m。ハワイ・カリフォルニアまで達する。
明治三十年一月十七日	一八九七	茨城県西部で地震
明治三十五年九月	一九〇二	台風で県内に大被害
明治四十年八月	一九〇七	台風で利根川氾濫
明治四十三年八月	一九一〇	台風で利根川氾濫、県内に大被害
大正六年十月	一九一七	台風で県内に大被害
大正九年	一九二〇	小貝川洪水
大正十年十二月八日	一九二二	龍ヶ崎地震 M七・〇 茨城と千葉の県境付近で家屋の倒壊、道路亀裂。
大正十二年九月一日	一九二三	関東大震災、M七・九 県内の死者・行方不明者五名、負傷者四十名、家屋全壊五百十七棟。
大正十三年九月	一九二四	台風により海門橋流失
昭和十年九月二十四日	一九三五	利根川・小貝川洪水
昭和十三年六月二十八日	一九三八	利根川・小貝川洪水
昭和十六年七月十日	一九四一	小貝川洪水
昭和二十二年九月	一九四七	カスリーン台風による洪水
昭和二十四年八月	一九四九	キティ台風による洪水
昭和二十五年八月二日	一九五〇	小貝川洪水
昭和三十三年九月二十七日	一九五八	小貝川洪水
昭和四十一年六月	一九六六	小貝川洪水
昭和五十六日八月二十四日	一九八一	小貝川洪水
昭和五十七年七月二十三日	一九八二	茨城県沖地震 M七・〇 日立から鹿島にかけて津波を観測。
昭和六十二年八月四日	一九八六	台風十号による大洪水（小貝川では母子島遊水池の設置）
昭和六十二年十二月十七日	一九八七	震度六以上の地震
平成十年八月	一九九八	那珂川洪水
平成十七年二月十六日	二〇〇五	茨城県南部地震 M五・三 負傷者七名。
平成十九年十月三日	二〇〇七	小貝川洪水
平成二十三年三月十一日	二〇一一	東北地方太平洋沖地震 M九・〇

（出典『水戸下市御用留』『茨城県史』『下総境の生活史 図説』平成十七年、『協和町史』平成五年『日本の地震活動』第三版 平成二十一年、『理科年表』平成二十四年版